

吉崎マーナが プロテスト一発合格！

11月4日（火）から7日（金）にわたり、岡山県のJFE 瀬戸内海ゴルフ倶楽部（6464ヤード・パー72）にて、日本女子プロゴルフ協会の最終プロテストが実施された。1、2次予選を勝ち上がった選手など参加条件を満たした106名が競い、上位20位タイとなった22名がプロとして認められた。

契約選手であり、沖縄カトリック高校3年生で18歳の吉崎マーナは日本ジュニアに優勝したことで、2次テストを免除されて最終テストに出場。初のプロテストへの挑戦で、万全の準備をして臨んだが、3日目までは思うようにプレーできず合格ライン圏外だった。最終日にやっと実力を発揮して挽回に成功し、通算3アンダーの9位タイで見事一発合格を果たした。

苦しみながらも合格を勝ち取った吉崎は、「無事にプロテストに合格することができました。たくさんのサポートのおかげで今年は全米女子アマチュアにも出場させていただき、たくさんの経験を積みさせていただきました。今回、その経験と事前合宿のおかげで合格することができたと思っています。私の目標は世界で勝てるプロゴルファーになることです。そのためにもまずはQTに向けてしっかり準備して頑張りますので、応援よろしくお願いします」と感謝と喜びのコメントをしている。

プロテストの合格率は約3%という狭き門。中でも一発合格できる選手はわずかだ。それを達成した吉崎は、世界を視野に入れて今後も活動していく。



18歳でプロテストに合格し、将来を嘱望されている吉崎



最終プロテストの結果

順位	スコア	合計	1R	2R	3R	4R
T9	-3	285	74	72	71	68



吉崎選手の
コメント動画は
こちら



自己最高ランクを更新した 岡村恭香インタビュー

後編

プロ生活10年が過ぎ、今年やっと全てのグランドスラム予選に出場できた岡村。23年、24年には引退さえ考えていた状態から、いかにして自己最高ランクまで登ってこられたのか。後編ではグランドスラム予選出場を決めた話をしてもらった。

プレッシャーのかかった試合で勝利 大会出場の決断がグランドスラム予選に導く

——昨年のジャパンオープン予選にギリギリで出られなかった後、東レ PPO では活躍しましたね。

岡村 実はエントリーミスをしていて本来は出られなかったのですが、ワイルドカードを頂けることになり泣くほどうれしかったです。予選決勝で負けましたがラッキーローザーで本戦に出られて、少し自分に運が向いてきたのかと感じました。そこで初めてトップ100の選手に勝ち、その後の香港のツアー大会でも予選を勝ち上がり13位の選手と対戦できました。負けてしまいましたが、続けてトップ選手と戦うことでプレーも上向き、前向きな気持ちになりました。今までは勝ちたい気持ちが先行して、うまく自分のプレーが出せませんでしたが、しっかりと表現できて勝ち切れて手ごたえを感じました。



「できることが増えて
身体も動けて
今が一番良い状態だと
思います」

——元世界24位の神尾米さんに師事してから大会期間中について変化はありましたか？

岡村 私は気にしなくていいところまで考えすぎる性格で、考えすぎて不安になり空回りすることが多いんです。そこを1個1個整理して正してもらえるのが有難いです。

——2024年のオフシーズンはどう過ごしましたか？

岡村 ずっと試合に出ていました。ランキングをあと少し上げれば全豪オープンの予選出場が確実になるという11月のオーストラリア3大会で結果を出せませんでした。その時、会社やチームの皆さんに迷惑をかけてしまったのですが、日本リーグ1stステージの直前に、もう1大会出場させていただきました。そこでベスト8に入り、結果的にその大会に出場したことで、全豪オープン予選にラストインできたんです。

1月の前哨戦はITFツアーのタイの大会に出場しました。実はWTAツアーの大きな大会に出るか迷っていましたが、(神尾) 米さんたちに「ITFの大会に出て優勝すれば全仏オープンとウィンブルドンの予選出場を決められるから、そっちの方がいいのでは」と言われて決めました。決勝では相手のマッチポイントを8本しのいで優勝できました。第1セットを2-5から挽回して取り、ファイナルセットは1-5までリードされた上に、足がケイレン。どうにかプレーしていたら相手のミスが増えて、ケイレンで緊張する暇もなく優勝できていた感じです。

——この2年間、プレー面で向上した部分はどこですか？

岡村 今までは攻撃力だけで土台がないから結果が出たり出なかったりでしたが、今は安定感が出てきて大きく崩れることがなくなりました。守備の面でもコートカバーできる範囲が広がり、ニュートラルラリーの確率が良く精度が上がったと思います。何かを大きく変えたわけではなく、やっと地道にやってきたトレーニングと練習の成果が身に付いてきたのかなと感じます。30歳になりましたが、できることが増えて身体も動けて今が一番良い状態だと思います。

武器のフォアを生かすために、バックでコントロールしてフォアで決めるチャンスにつなげたり、フォアで攻撃した後のネットプレーの精度や、サービスの精度を高めることは継続して練習しています。

——これからはポイントを守る戦いにもなります。どういう気持ちで臨もうと思っていますか？

岡村 今までどおり、どの試合も勝ちたいことは変わりありません。絶対に勝ちたいと思って勝てるわけでもありませんし、自分がやることは変わらずにベストを尽くすだけです。

——今後の目標を教えてください。

岡村 30歳を迎えて、まだ成長できるところがあると思っているから頑張れます。だからと言って、今後10年、20年とできるわけではないので、とにかく1大会でも早くグランドスラム本戦の舞台に立ち、そこで勝てるようになりたいと思います。

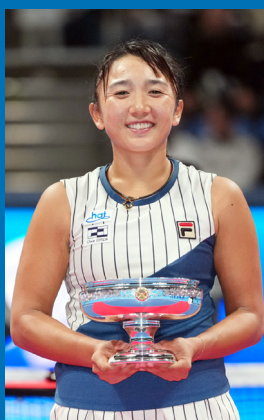
PROFILE

岡村 恭香

Kyoka Okamura

1995年10月6日生まれ。岡山県出身。右利き。2014年6月にプロ転向。25年に初めて100位台のランキングになり、全てのグランドスラム予選に出場。キャリアハイは178位(2025年2月17日付)。今年の全日本選手権シングルスチャンピオン

写真=伊藤功巳



テニス
TENNIS

みらい市で テニスクリニック

業界最大級の総合展示会「みらい市」を、東京ビッグサイドで11月14日（金）、15日（土）に開催。会場内でミニテニスコートを設置できなかったため、昨年に続き有明テニスの森で14日にテニスクリニックを実施した。当初の定員を超えて17名の参加となり、コートを3面に増やして行ない、参加者は所属選手によるレッスンを十分に満喫できたようだ。



テニスクリニックに参加した皆さん

柳川高校×橋本総業 国際男子オープンテニス

10月28日（火）～11月2日（日）にわたり、福岡県・柳川高等学校において、スポンサードしている『FUKUOKA ONE HEALTH 柳川高等学校×橋本総業 国際男子オープンテニス 2025』が開催された。現役の高校生が運営する他に類のない大会で、表彰式では橋本政昭会長が優勝者にトロフィーを授与。優勝したアメリカの22歳シク選手にとっては、初のITFシングルス優勝となった。



大会運営という経験を積んだ高校生たちと一緒に

優勝したシク選手に橋本会長からトロフィーの授与

小堀 桃子

Momoko Kobori



WTA250
香港テニスオープン
10月27日～11月2日
ダブルス準優勝

WTA250
DOUBLES
準優勝



ITF W100
DOUBLES
優勝

ITF W100
高崎国際オープン
11月17日～11月23日
ダブルス優勝

ITF W35
浜松ウイメンズオープン
11月3日～11月9日
シングルス優勝

ITF W35
SINGLES
優勝



森崎 可南子

Kanako Morisaki



ITF W35
浜松ウイメンズオープン
11月3日～11月9日
ダブルス準優勝

ITF W35
DOUBLES
準優勝



ITF W100
高崎国際オープン
11月17日～11月23日
シングルス優勝

ITF W100
SINGLES
優勝

坂詰 姫野

Himeno Sakatsume



浅地洋佑が アジアツアー2勝目!



11月6日(木)～9日(日)にわたって行われた「マオタイ シンガポールオープン」(ザ・シンガポールアイランドCC / 7295 ヤード/パー72)で浅地洋佑が優勝し、アジアツアー2勝目を挙げた。浅地は最終日に67をマークして通算19アンダー。韓国の選手とのプレーオフを制して初優勝を果たした。5月の日本ツアー「中日クラウンズ」で優勝し、10月の「インターナショナルシリーズ フィリピン」では2位タイと好調だった。アジアツアーのインターナショナルシリーズは賞金が高額で、浅地はこの優勝で5500万円を獲得している。



今年絶好調の浅地(右)はアジアツアー2勝目を挙げた

働くボディビルダー

TAKUMAのコラム



今年2月に入社した一瀬巧真が、
業務と競技を両立させる
ボディビルダーの
生活と競技の魅力を語る!



BODYBUILDING 九州を支える”肉体派”社員

2025年2月に入社以来、私は橋本総業の九州支店で、倉庫業務を主に行い、見積もりなどの内勤業務を兼任しています。倉庫業務としては、午前福岡市内の得意先への配送や現場への搬入を行い、午後は内勤として見積り対応や電話対応、発注業務などを担当しています。

私が橋本総業への入社を決めたのは、大学時代に始めたボディビルディングと仕事を切り離したかったからです。トレーニングを仕事にしまうと、好きだったものが嫌いになってしまう人を多く見てきたため、私は趣味を趣味として楽しむために、競技と関係のない分野で働くことを選びました。元々は大学2年次にダイエットを決意しジムへ入会。そこで出会った同級生の勧めで、ダイエットの結果として大会出場を目指したことが競技へのきっかけとなりました。

年間のスケジュールとしては、1月～8月に減量を行い、夏季の土日に開催される年に2～4回の大会に出場します。大会後の9月～12月はオフ期間(増量)としています。トレーニング頻度は週3～4回で部位別を実施。平日は勤務後に、土日は日中に行っています。

競技の喜びは、ゴールがない以上、日々試行錯誤を繰り返して食事・トレーニング・睡眠(休息)のアプローチをしていることです。これに伴い、筋肉や関節の動きといったコンディション面の改善・改良ができ、前の自分を越えたときに大きな達成感を実感します。

一方、大変さは、毎日の取り組み方が課題であることです。手をあげばすぐに身体面にフィードバックされるため、365日24時間、毎日毎時間、取り組み方を考えて実行しています。食生活の制限は厳しく、季節のイベントに参加しにくいなどの弊害もありますが、その自己管理能力が

仕事への集中力にも繋がっていると感じています。

筋肉は生涯を通して必要になる一生モノの身体的要素です。本格的な競技を目指さなくても、軽く趣味として始めることは非常におすすめしたいです。この経験を生かし、今後も業務に邁進していきたいと思っています。



365日24時間、取り組み方を考えて実行し大会に臨んでいる

PROFILE

一瀬 巧真

Takuma Ichinose

2000年2月22日生まれ。大学2年次のダイエットがきっかけでボディビルディングをスタート。23年熊本マッスルゲート75kg超級3位、24年長崎県ボディビル選手権6位。次回の大会は来年夏頃を予定